

## 新たな旅行スタイルを模索する

## ／2003年の旅行動向見通し

### 開催概要

旅行・観光業界向けに、旅行市場の動向分析と新しい志向・潮流の紹介を軸に、当財団が毎年暮れに継続実施しているセミナー。参加者には、前年の旅行市場の動向をまとめた『旅行年報』、観光産業を代表する方々へのアンケート調査にもとづく『旅行の見通し』の2点の財団刊行物の配布も行う。02年度は、「2003年の旅行動向見通し」「『17の旅行ストーリー』から30代の多様な旅行動機を解明する－結婚、出産は分水嶺にならない？－」の2件の財団報告と、「“温泉”が拓く新しい旅行スタイル－ウエルネスツーリズムの可能性を探る－」をテーマとしたパネル討論を軸に行われた。

担当者：小林英俊 巻山隆 牧野博明 渡邊智彦

日時：02年12月24日 13：30～17：30

場所：経団連会館 11F 国際会議場（東京・大手町）

主催：（財）日本交通公社

### プログラム

#### 第1部 財団報告1

##### 「2003年の旅行動向見通し」

（財）日本交通公社 研究調査部 市場分析グループ（寺崎竜雄 林俊介 黒須宏志 久保田美穂子）

02年の旅行市場は良かったのか悪かったのか、そして03年はどうのような局面を迎えるのかについて、当財団調査の「観光業界を代表する方に聞く旅行の見通しアンケート」、「全国観光地動向調査」、全国の消費者約2,000人に聞いた旅行意識調査結果などにもとづいて解説を行った。

#### 第2部 財団報告2

##### 「『17の旅行ストーリー』から30代の多様な旅行動機を解明する

##### －結婚、出産は分水嶺にならない？－

共同研究者：大島啓子氏（（株）ガウス生活心理研究所 所長補佐、チーフ・プランナー）

小林英俊（（財）日本交通公社 観光マーケティング部長）

現在の我が国の旅行市場を牽引しているのは、50代以上と30代であり、低迷する我が国経済における旅行消費の中心的な存在となっている。

ここでは、結婚・出産など人生の転機に直面する世代でもあり、より一層考え方・行動パターンに多様性がみられるものと想定される30代について、その価値観・旅行動機をもとにした今後の旅行スタイルの方向性、旅行商品の可能性を提示した。果たして結婚・出産は旅行動機とどのように関わっているのか。また、男女間でその考え方は異なるのか。

#### 第3部 パネルディスカッション

##### 「“温泉”が拓く新しい旅行スタイル－ウエルネスツーリズムの可能性を探る－」

パネラー：飯島裕一氏（信濃毎日新聞社 編集委員）、小野倫明氏（常磐興産（株）企画部商品開発チーフ）、宮地正典氏（タラソシステムジャパン コンサルティング事業部・主席研究員）、鶴田浩一郎氏（（株）鶴田ホテル 代表取締役社長）

コーディネーター：小林英俊

旅行者の志向や実態をみると、健康志向と旅行との融合の兆しが読みとれ、中期的には大きな流れの一つになるであろうことが予測される。日本では医学界をはじめとして、温泉や海洋、高地が及ぼす心身への効果についての認識が低く、ほとんどの場合、「民間療法」や「伝承療法」といった言葉で片づけられてしまうが、我が国でも高齢化社会を迎え、ますます健康志向が高まるなか、いつまでも元気で前向きに生きたいと願う旅行者の要望に応えるようなツーリズムの確立が急がれるところである。

今回は、日本における“ウエルネスツーリズム”を立ち上げるのに最も可能性の高い“温泉（地）”に着目し、新たな旅行スタイルの可能性や新たな旅行ジャンル確立の方策について、この分野を代表する方々をお招きし、多面的な議論を展開している。

### 参加者概要

参加者数 223名

（内訳）一般参加 134名、招待 63名、JTB26名